

授業改善等に関する報告書（2022年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

【2022（後期）生活環境学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
I C T 基礎演習	佐藤 健	新しいICTの一旦を担うUnityを中心に演習しました。自主練できる学修が身につけているといいです。
アパレルデザイン実習 a	川上 梅	少人数の実習授業ではありましたが進度に個人差があったため、マンツーマンでの指導が多かったような印象です。回答結果もそのような実態を表しているように感じます。今年度で私の授業は最後になりますが、この授業が今後の皆さんの学びや生活に役に立つことを願っています。
アパレルデザイン実習 a	川上 梅	「この授業を通じて自分の成長が実感できましたか」「総合的に判断してこの授業に満足しましたか」については、回答者全員が「よくあてはまる」と回答しています。今年度で私の授業は最後になりますが、この授業が今後の皆さんの学びや生活に役に立つことを願っています。
アパレル生産	大川 知子	4ヶ月の授業、お疲れ様でした。アンケート結果では、ご自身の成長を感じられた方が88.9%、また、更に学んでみたい方も77.7%、意欲的に取り組んだ方も83.3%と高いスコアでした。3年生になると、また、専門性が上がりますが、引き続き頑張ってください。
インテリアコーディネート論	山口 照也	<p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした生活空間の割合は、個人生活空間68%、共同生活空間16%、生理衛生空間11%、1R住居5%、住居全体0%で、昨年とほぼ同じ順位でしたが、自分がコーディネーター兼クライアントになれる自室（個人生活空間）を対象にした人が昨年度より大きく増加して7割に近い比率でした。わがままに考えるだけでなく、他者の立場になって考えなければならない「共同生活空間」や「生理衛生空間」を対象にする人が増えて欲しいと願っています。</p> <p>② インテリアコーディネート分析の分析項目は、課題要項では2項目以上でしたが、全項目を実践すると「より望ましいインテリアコーディネート」になるはずなので、今後に役立ててください。今年度の割合は、家具33%、照明28%、内装材14%、住宅設備機器7%、ウィンドトリートメント9%、寝装寝具5%、インテリアオーナメント2%、建具2%、造作物品0%、エクステリアエレメント0%でした。内装材を対象にした人が増えたのは良い傾向です。上位の家具、照明、寝装寝具、ウィンドトリートメントは、生活者自らコーディネートする機会が多いので、コーディネーターを目指す人はこれ以外のエレメントをコーディネートできる必要があります。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価0%、A評価21%、B評価42%、C評価21%、D評価16%、未提出0%という結果でした。平均点は35/50点のB評価で昨年度と同じです。D評価は、課題要項を守っていなかったり、客観性がなく感想文に近いレポートです。</p> <p>アンケート結果について、回答者は11/24人（46%）と昨年より少なく半数以下なので、正しい結果なのか懸念がありますが謙虚に受け止めて、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に6点のコメントがありました。「理解が深まった」「知識が身についた」「コーディネート全体としてインテリアを見るようになった」等、多くは好評価のコメントでしたが、意見が1点ありました。「オンデマンドでもよい」という意見です。本年度は5時限目ということもあり、履修者が昨年度までより減りました。実物のサンプル確認や臨機応変な対応が可能な対面授業が望ましいと考えているのですが、自分の都合に合わせて履修したい気持ちは分かります。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で、「欠席回数」が昨年の倍に増え、当該区分平均や全体平均より多いのは皆さんで改善して欲しいです。「予習復習時間」は昨年より多く、当該区分平均や全体平均より多いのは良い傾向ですが、「理解度」が昨年度より低く且つ当該区分と全体平均より低くなっているのが問題です。「欠席回数」と下記の「授業内容と方法」が原因と考えられます。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」の各項目は、ほとんど当該区分平均や全体平均より低く、且つ昨年度より低くなっていて改善が必要との意見だと思えます。本年度はワークシートCを増やして自分に合った選択が可能なようにしたつもりでしたが、効果は無かったようなので再検討してみます。</p> <p>④ 「全体について」では、ほとんどが当該区分平均や全体平均より低く、且つ昨年度より低くなってしまいました。「成長実感度」や「満足度」が低くなったのは、「授業内容と方法」が原因だと考えられるので再検討してみます。</p>

[2022 (後期) 生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
インテリアデザイン論	山口 照也	<p>まず、レポート課題提出結果についてコメントします。</p> <p>① 皆さんが課題対象とした空間の割合は、個人生活空間51%、共同生活空間31%、1R住居13%、住居全体3%、生理衛生空間1%で、昨年度から個人生活空間を対象にした人が大幅に増えて今年度は半分以上になっている傾向があります。共同生活空間や生理衛生空間を課題対象にすると自分のわがままな判断だけではなく客観的な判断が必要になるので、個人生活空間以外を課題対象にして欲しかったです。</p> <p>② インテリアデザインの分析考察項目の割合は、家具13%、あかり13%、素材色彩12%、寸法9%、行為9%、窓9%、床6%、ファブリックス6%、出入口5%、屋内環境・設備5%、心理4%、壁4%、かたち3%、天井3%、架構1%です。家具、あかり、素材色彩は毎年度ベスト3で合計比率38%ですが、寸法、行為、窓の比率が増えているのは良い傾向です。</p> <p>③ レポートのみでの評価は、A+評価2%、A評価12%、B評価34%、C評価28%、D評価21%、未提出3%という結果でした。平均点は34/50点でBに近いC評価で昨年度とほぼ同じです。昨年度よりD評価が増えています。D評価は、課題要項を守っていないかったり、客観性がなく感想文に近いレポートです。オンデマンド授業の影響があるかもしれません。評価には関係していませんが、デザインの思考よりコーディネートの思考のレポートが増えているようです。原点から考え、「本質を見抜く力」を養って欲しいと願っています。</p> <p>アンケート結果について、回答者は26/100人 (26%) と昨年より少なく半数以下なので、正しい結果なのか懸念がありますが謙虚に受け止めて、次のようにコメントします。</p> <p>① 「成長の実感の記述」と「自由記述」に15点のコメントがありました。が、昨年度の半分でした。「理解が深まった」「多方面から考察することができた」「インテリアとは何かを深く考えることができた」等、好評価のコメントが多かったのですが、「最終課題が重かった」という感想が1点ありました。評価の半分を占める最終レポート課題であり、1週間で終わらせるのは大変なので1回目授業で公開しています。大変だったと思いますが今後に役立つはずですよ。</p> <p>② 「あなた自身について」の項目で、「欠席回数」は昨年度より多くなっていますが、当該区分平均や全体平均より少ないです。「予習復習時間」が昨年より多くなっており、当該区分平均や全体平均より多く、「理解度」も昨年度より高くなっています。予習復習時間が多くなった結果が出たと思います。</p> <p>③ 「この授業の内容と方法について」では、全項目とも昨年度より良く、当該区分平均や全体平均より良いです。コロナ禍でオンデマンド授業を余儀なくされましたが、良い結果になった良かったです。</p> <p>④ 「全体について」は、「意欲的取組み」は当該区分平均や全体平均より低かったものの他は昨年度より良く、当該区分平均や全体平均より良いです。「成長実感度」と「満足度」が高かったので安心しました。毎回の小レポート提出と最終レポート提出で大変だったと思いますが、やった事は身につけているはずなので、今後に活かして欲しいです。</p>
テキスタイル管理実験	塩原 みゆき	<p>授業内容については、履修した学生さんが理解しているものの、中には、理解できずにいた学生もいて、すべての学生に十分に理解させる必要があることを知れた。また、実験についての説明方法などは、概ね、理解されていたが、理解できなかった学生には、個別に丁寧な指導が必要と痛感した。</p>
テキスタイル材料学	加藤木 秀章	<p>難しいことも多いと思いますが、復習をするとより効果的です。</p>
テキスタイル材料実験	加藤木 秀章	<p>授業後、内容の復習をするとより学修に効果的となります。</p>
デザインワークショップ	内藤 将俊	<p>建築インテリア構法に続く、より高度な建築一般構造科目として、木造や鉄骨造、鉄筋コンクリート造に渡る広範囲な構造と構法についてのレクチャーに加え、オリジナルの軸組み図面を作成し、壁量計算を行い、さらに軸組み模型を組み立てるなど、非常に専門的な内容の講義であったと思います。特に多くの受講生が繰り返しの木造壁量計算テストや鉄骨・RC造テストでしっかりと回答し、さらに、素晴らしい軸組み模型を完成させてくださいました。</p>
デザイン基礎演習 b	内藤 将俊	<p>90度、180度、360度開きの複雑な折り紙建築の作成に加え、ほとんどの受講生が初めて扱うステンボードやステンペーパーを用いてのコンタ模型や光の空間（別荘）、光の空間（自由課題）など、高い創造性を身につけてくださったと思います。課題提出率も非常に高く、意欲的に取り組んで頂きました。特に、最終課題の光の空間では、シーンを的確にイメージし、それに適した材料や光源を用いて作成にあたり、光や影、また撮影アングルに工夫を凝らした、力作が非常に多く見受けられました。</p>
デザイン基礎演習 d	橋 弘志	<p>昨年に引き続き、2部屋に分かれて授業を行うこととなった。2部屋をzoomで繋いで画面を通して説明をするので、見づらい部分、聞き取りづらい部分は多々あったかもしれない。各自の作品を互いに見て回る機会を設けたことは、他の人の作品に刺激を受けるきっかけとなったようだ。自分でデザインした空間を、パースやアイソメで表現するのも、今後の表現スキルに大きく関わっていくと考える。</p>

[2022 (後期) 生活環境学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ファッションビジネスの世界	大川 知子	4ヶ月の授業、お疲れ様でした。授業を通しての成長を、93.3%の方が感じておられ、また、「この分野を勉強したい」と思ってくれた方たちが90%もいらして、ファッションの学びの入口として、多くの方たちが興味を持って下さって、良かったです。ことビジネスに関しては、建築やプロダクト・インテリアにも共通する点が多くあります。今回の学びで得た視点を、今後、街やお店を見たり、ニュースを目にする時に、活用してみてください。
ファッション企画論	川上 梅	主として2人のグループで行った企画演習に関しては賛否両論あったようですが、「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」の「よくあてはまる」80%、「あてはまる」20%の数字は、この演習の時の結果を表しているものと思います。今年度で私の授業は最後になりますが、この授業で行った企画や協働の経験が今後の皆さんの学びや生活に役に立つことを願っています。
マーケティング論	大川 知子	4ヶ月の授業、お疲れ様でした。「授業を通して成長を感じられたか」については93.1%、意欲的に取り組んだ方も89.6%と高いスコアでした。マーケティングは、ベータシフトで変わらないうち、時代の要求により変化するところがあり、授業内の素材選びも難しいのですが、これだけの方が満足されたのであれば、本当に良かったです。いよいよ、最終学年、引き続き、良い学びを続けて下さい。
マルチメディアデザイン演習	山崎 和彦	学生10名中、3名の書き込みがあった。その3名に向かって申し上げよう。創作にはいささか苦しみがある。それを突破できたとき、喜びが生まれる。この繰り返しによりデザイナーとしてのセンスが磨かれて行く。苦しむことは、そう悪いことではない。
家庭工学	加藤木 秀章	身の回りのものに着目し、工学が使われていることにふれるとよりわかりやすいです。
建築デザイン論	内藤 将俊	本年は、いずれコロナ禍も収束するであろうことを期待し、世界的に活躍する方々を中心に、建築家や家具メーカーの代表、建築写真家、ITのプロダクトマネージャーなど、今を生きるトップランナーの方々が集結し、広範囲かつ先進的なレクチャーをしていただきました。質疑等を通して、皆さんからも前向きに参加する姿勢が感じられました。
建築構造	橋 弘志	建築構造については、本当はもう少し反転授業的な方法にシフトしていきかけたかったが、学生によって理解の程度にかなり差が開いてしまった感もある。説明が冗長に感じるコメントと、早すぎると感じるコメントが同居することとなり、授業の適度なスピードがなかなか難しい。それでも全体的にみると、構造計算の基礎に対するある程度理解を進めることはできたのではないだろうか。
住居デザイン論	橋 弘志	初のオンデマンド形式での授業であり、教材を作成するのにかなり手間がかかったが、おおむね好評のようであった。助手との対話形式にしたこと、時折実演の様子を入れたこと、ただ話を聞き続けるだけではなく途中にシンキングタイムを入れたことなど、なるべく双方向に近いイメージを心がけた。寄せられた質問には基本的にすべて回答したことも、双方向のやりとり近づけられたかもしれない。
消費科学	大川 知子	回答期間を超えての告知となってしまった為、おひとりからしか回答がありませんでした。その年々の状況が変わることから、毎年、いろいろ悩みながら進めています。総じてみなさんが主体的に取り組んで下さったので、内容の濃い4ヶ月でした。卒業後も、消費に纏わる様々な社会問題にも目を向けて行って欲しいです。
消費生活学	杉本 公枝	授業アンケートへの回答ありがとうございます。アンケートの結果から「双方向授業（質問のしやすさ等）」が今後の課題であるわかりましたので、授業スタイルを改善するとともに、各回の授業内容も再整理したいと思います。
情報アムニティ論	尾崎 博和	授業をよく聞いてくれて感謝しています。パワポの資料はスマホでも正確に見れるよう字数レイアウトを工夫します。授業の構成と時間配分を見直し、皆さんと教員との双方向のやり取りを増やす等、授業時間中における気づきや記憶の定着を意識したいと思います。
色彩設計演習 a	槇 究	全体に平均値以上の評価を頂きました。特に、大問Ⅲの成長実感や学びの意欲などが高めたのは嬉しいですね。改善点として、画像解像度に触れているものがありました。次年度に向けて配慮したいと思います。
人間工学	佐藤 健	対面に戻った講義の授業はどうでしたか？これまで、画面を見ていればいい感じでしたが、手書きでメモを取る練習はどうでしたか？様々なスキルが今後の活躍に活かされます。

【2022（後期）生活環境学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活環境科学	塩原 みゆき	授業アンケートの回答を、各自発表の時間の後に設けてしまい、回答率が低かった。次回は、授業の前に回答時間をしっかりと設けたい。授業内容と毎週のレポート提出については、概ね理解されていたので、さらに授業のブラッシュアップに努めたい。
生活環境学セミナー	塩原 みゆき	概ね満足度が高かった。しかし、4年生になってからの卒論選び、卒論のまとめ方など、さらに役立つようなテーマ選びをして、ゼミ生の力をつけさせていきたいと思う。
生活環境学セミナー	加藤木 秀章	活動では、主体的に学ぶことも大切です。自ら進み学んでください。
生活環境学セミナー	佐藤 健	ゼミで海外発表エントリーして、分野別でラスト2に選ばれたら、ワシントンDCに行くことになってました。今後の活躍を期待します。
生活環境学セミナー	山崎 和彦	我がゼミでは輪講形式を採ったから、この評価は、仲間の発表能力に対する評価とも言えるのであろう。私からみれば、読み込みが浅いケースが多々あったが、他者の論文を手取るのが研究の第一歩であるから、そうやって踏み出したことをもってよしとしよう。
生活環境学セミナー	川上 梅	この授業に関して「成長を感じている」「さらにこの分野を学びたい」「総合的に見て満足」「意欲的に取り組んだ」では、「よくあてはまる」100%の数字が示すように、皆さんは協力し合い自主的に行動した結果、常磐祭での衣服製作の展示と動画放映では学長賞をいただくことができました。4年生ではますます意欲的に卒業制作に取り組んで欲しいと思います。
生活環境学セミナー	大川 知子	告知のタイミングを逸し、アンケートの提出者がいませんでした。学生のみならず、協力し合い、共に様々な活動が出来、大変充実した1年間でした。4月からは、卒業研究を頑張ってください。
生活環境学セミナー	内藤 将俊	スプリングスクールや人工大理石による企業連携プロダクトデザインコンペ、サマースクールでの大規模施設の設計とその発表会、研究室改造計画、光の庭と、様々な活動を一致団結して、積極的に取り組んで下さいました。「情熱とこだわりを持って、独創的なものを創造する」「お祭り騒ぎ」を必死に楽しんで下さいました。どれも大変に素晴らしい成果でした。
生活環境学セミナー	槇 究	Q5～Q10については平均的な評価でした。一方、Q11の成長実感、Q12の更に学ぶ意欲については大変高い評価となっていました。コメントを読んでも、プロジェクトがそういった実感を生んでいると思いますので、次年度以降も継続してプロジェクトを実施出来ればと思います。
生活環境学演習	塩原 みゆき	2年生の全研究室を体験し、3年時のゼミ選択の参考にしてもらおう演習である。こちらについては、授業アンケートの採取を行う旨のアナウンスをしていなかったため、アンケートに答える人が1人のみだった。私自身の授業の対する意見というよりも、各研究室での対応が違うために、受ける印象の違いから不満を持つ研究室説明もあったと思われる。学科の先生方で共有し、改善が必要と思われる。
生活環境学演習	加藤木 秀章	学んだことを見直しするとより効果的です。
生活環境学演習	橋 弘志	今年は、授業中に時間をとってアンケートを行ってもらうのを忘れてしまいました。毎回異なる研究室を巡り、各先生の話聞くことで、興味や視野が広がったという声をかなり聞いたので、ゼミ選択を考える上で貴重な機会になったのではないかと思います。
生活環境学演習	佐藤 健	ゼミ周り、ゼミ紹介だけでなく、労働科学の一旦を担う人間工学の働き方の話どうでしたか？
生活環境学演習	山崎 和彦	9名中1名から回答があった。そのたったひとりの君は偉い。伸びて行って欲しい。ときどき遊びに来て欲しい。他の8名の諸君へ。ま、それなりに伸びて行って欲しい。しかし、このコーナーを眺めることなど永遠にないのだろう。
生活環境学演習	川上 梅	3年次「生活環境学セミナー」の研究室選択に繋がる授業ですが、回答者全員が「説明が分かりやすかった」と回答していますので、研究室選びが適切に出来たものと考えます。3年生ではそれぞれのゼミで積極的に活動することを願っています。
生活環境学演習	大川 知子	9名のメンバーの中で、3名の方からのみの回答でしたが、総じてみなさん高い満足度で良かったです。いよいよ、研究室も決まり、4月からの活動も頑張ってください。

【2022（後期）生活環境学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
生活環境学演習	内藤 将俊	10の専門的領域を有する各々の研究室での講義を通して、ご自身が取り組むべき分野や卒業後のことについて改めて考える機会になったかと思います。レポートの提出状況も素晴らしく、皆さんの積極性を強く感じ取ることができました。
生活環境学演習	槇 究	私が見られたのは3名の回答ですので少数ですが、全体に評価が大変高かったです。その中で、意欲的に取り組む度合いは若干低めだったので、今後、意欲を喚起する内容を考えることが課題となるかと思います。
生活環境基礎 b	佐藤 健	数学と物理と化学とその他の復習のような授業でしたが、どうでしたか？少しでも、受講生の皆さんがさらに必要な時まで理解が維持できるように、手書き回答例を利用してもらえれば幸いです。
生活環境基礎 c	塩原 みゆき	エクセルを使った作図の仕方や、単位の変換など、受講者にとっては、苦手なところを課題として取り上げている授業であったが、割合に、理解してくれていた。今後は、もう少し難易度を下げて、わかりやすさを重点において、授業をしていきたい。
生活空間設計製図 2	橘 弘志	設計製図2は今年から2名体制として、前半の課題と後半の課題で教員を入れ替える形を試みた。設計には明確な解答があるわけではないので、教員が複数でみることで、それぞれの視点、アプローチがあり、評価する点も異なるため、そのような複数の意見が聞けることで、視野を広げるきっかけとしてくれると良いように思う。授業中の指導方法も、あえてもっと差をつけても良いかもしれない。
生活空間設計製図 2	神野 郁也	設計製図2は今年から2名体制として、前半の課題と後半の課題で教員を入れ替える形を試みた。設計には明確な解答があるわけではないので、教員が複数でみることで、それぞれの視点、アプローチがあり、評価する点も異なるため、そのような複数の意見が聞けることで、視野を広げるきっかけとしてくれると良いように思う。授業中の指導方法も、あえてもっと差をつけても良いかもしれない。
生理学	山崎 和彦	採点を終えた。いつもながら、成績はベルカーブであり、全員が+AないしAという具合には行かなかった。コロナ感染症のためもあるが、毎回、相当数の欠席者があった。生理学は蓄積型であるから、欠席は致命的である。いろいろな意味で残念であった。
生理人類学実験	山崎 和彦	私が学生諸君に期待するのは、実験結果について考察する際、体験した装置類は他にどのような応用が可能となるか思索することである。半年にわたりこの作業を繰り返すことにより、やがて卒業研究のテーマを考えると、選択肢が豊かになっている筈である。
繊維高分子材料学	加藤木 秀章	テキストなどで復習を重ねると、学ぶことが効果的になります。
繊維高分子材料実験	加藤木 秀章	しっかり頑張っていました。実際の事象について、より深く考えてみると学修効果があります。
福祉住環境論	橘 弘志	せっかくの対面なので、responを活用して、なるべくリアルタイムに受講者の声を共有しながら進めることを心がけた。資料を直接配付するのではなく、各自manabaからダウンロードするようにしたもの、資料のアップがいつもぎりぎりになってしまったことは改善する必要がある。半期14回の授業にまだうまく合わせられず、最後は時間が足りなくなってしまう感がある。